免疫・抗ウイルス対応の実力派素材

免疫対応素材 特集

東栄新薬

露地栽培アガリクス「KA21株」

国産に比べ5倍以上の抗酸化活性

サプリメントを製造・販売する東栄新薬（本社東京都、元井章智社長、☎0422-26-7310）が提案するブラジル産露地栽培アガリクス「KA21株（以下KA21）」は、免疫関連を含めた多様な効果が、多数の研究で科学的に裏付けられている。同素材に関する国際論文は34報にものぼる。研究では、国産ハウス栽培アガリクスに比べて、5倍以上の抗酸化活性を持つことを確認。NK（ナチュラルキラー）細胞の活性化作用や抗腫瘍効果、抗ウイルス効果を持つことなども解明している。真菌症の一つとして注目されている腸カンジダはリーキーガット症候群の原因になる可能性が指摘されており、有効性が期待できるという。腸カンジダ対策としてのニーズも高まってきているとしている。

ブラジルで露地栽培を行ったアガリクス

「KA21」は、ブラジルで、太陽の下、露地栽培を行ったアガリクス。暗所で栽培される通常のハウス栽培アガリクスに比べ、サイズが大きく育つのが特徴だ。「β-グルカン」やビタミンDを豊富に含有している。

露地栽培した「KA21」には、国産ハウス栽培アガリクスの5倍以上の抗酸化活性が確認されている。免疫から育毛、腸内環境改善に至るまで、幅広い分野で有効性を発揮することが分かっている。

免疫に関しては、NK細胞の活性化作用を持つことを、健常者を対象にした臨床試験で確認している。研究成果は07年4月発行の英国の学術誌「e-CAM」（オックスフォード大学出版局刊行）に掲載された。

マウスによる基礎研究では、抗腫瘍効果やがん抑制作用、炎症性サイトカインの抑制効果なども確認。腫瘍細胞による担がんマウスモデルに、アガリクスの熱水抽出物を経口投与した試験では、腫瘍の縮小効果が確認された。

「KA21」が、抗がん剤の副作用軽減に役立つことも動物試験で確認している。こうしたことから、抗がん剤による酸化ストレスを抑制することにより、抗がん剤の副作用を軽減したと考えられるという。

抗ウイルス効果があることも、数次にわたる試験で確認している。

真菌症に対しても効果を発揮

「KA21」は、真菌症に対しても効果を発揮する。真菌は、体の各所で疾病・体調不良の原因となる。口腔内カンジダ、腸カンジダ、頭部白癬、水虫、膣カンジダなどは、いずれも真菌症だ。

「KA21」のβ-グルカンは、病原性真菌であるカンジダと構造式が非常に似ている。そのため、「KA21」を摂取すると、体内（特に腸管）の免疫細胞が異物と認識し、自然免疫系が活性化される。その後、獲得免疫系も活性化。アガリクスのβ-グルカンに対する抗体も産生され、構造式の似ているカンジダなどの病原性真菌への反応も活発化するとしている。

食食・殺菌が促進されるため、真菌症の予防につながると考えられるという。

臨床試験でも有効性を確認

犬・猫を対象とした動物試験でも、真菌症である、マラセチア性皮膚炎・外耳炎や皮膚系状菌症に対する有効性を確認。ヒト臨床試験でも、真菌症に対する効果が確認された。

同試験では健常者21人を①「KA21」900㎎②同1500㎎摂取群――の2群に分け、12週間摂取させた。

その結果、900㎎摂取群、1500㎎摂取群とも、摂取前比で、病原性真菌である「カンジダ」由来のβ-グルカンに対するIgG/MA抗体価の有意な上昇が確認された。1500㎎摂取群ではIgG抗体価の有意な上昇も確認された。

同じく病原性真菌である「アスペルギルス」由来のβ-グルカンに対するIgG抗体価についても、1500㎎摂取群で有意な上昇がみられた。従来よりも低用量・短期間の摂取でも、免疫系を活性化し、真菌症に対する有用性を発揮する可能性が示された。

研究論文は薬用キノコ関連の国際的な学術誌「インターナショナル・ジャーナル・オブ・メディシナル・マッシュルーム」に掲載された。

真菌症である「腸カンジダ」は、「腸漏れ」などとも呼ばれる「リーキーガット症候群」の原因になる可能性が指摘されている。

同社としては、「KA21」が腸カンジダの抑制を通して、「リーキーガット症候群」にも有効性を発揮するのではないかと期待しているという。